

## 森下恭介

### 「野辺の草」

モチーフになった作品：

『平家物語 巻第一』〈祇王〉より  
「もえ出るも枯るるもおなじ野辺の草  
いづれか秋にあはではつべき」

価格：77,000 円（額、税込）

サイズ：F4号（H.333 mm×W.242 mm）



### 「野辺の草」

”もえ出る若葉も枯れる枯草も、もとは同じ野辺の草であり、一時は栄枯の差はあるものの、いづれは秋に逢わぬわけにはゆくまい”

平清盛からの寵愛を失った祇王が邸から追い出される際、今まさに寵愛を受けている仏御前もいづれ自分と同じように、最後は飽きられて捨てられる運命を辿るでしょうと詠った詩です。

一人の人物が詠ったこの詩を通して、平家物語の初めてで語られ、物語の大きなテーマといえる「盛者必衰のことわりをあらはす」という言葉そのものを表現しました。

### 「宇和島の黒船」

モチーフになった作品：

司馬遼太郎『酔って候』より「伊達の黒船」

価格：66,000 円（額、税込）

サイズ：F4号（H.242 mm×W.333 mm）



### 「宇和島の黒船」

伊達家宇和島城下に、手先の器用さだけが取り柄で提灯や細工物の修理を生業にしていた嘉蔵という男が暮らしていました。城下では最下層の身分で、周囲からひどく馬鹿にされていたこの人物でありましたが、嘉永六年ペリー来航から八か月後、幕末の四賢候の一人であった藩主伊達宗城の思い付きにより、黒船造船の任に就くことになるのでした。

時代の転換点となった大事件によって数奇な人生を送ることになった嘉蔵が一番最初に試作した箱車と、物語の最後に建造されて海上を進んだ黒船を足した姿を想像して描きました。

森下 恭介 Morishita kyosuke

1989年 愛知県生まれ

2008年 静岡県立清水南高等学校芸術科卒業

2012年 広島市立大学芸術学部美術学科日本画専攻 卒業

公募展：数寄和「ギャラリーへ行こう2012」

(14' 15' 17' 19' 20年) (数寄和/東京)

2014年 広島市立大学大学院博士前期課程 修了

グループ展：「第14回 芸美会展」(福屋八丁堀本店/広島) 以後毎年出展

2015年

個展：「森下恭介 日本画展」(Gallery café 月~Yue~/広島)

個展：「MILITARY ON THE BASE 森下恭介戦車模型情景作品展」

(ギャラリー aetalag/広島)

2016年

グループ展：「特別 G セレクション 二〇一六年新春ニホンガ展覧会」

(Gallery G/ 広島) 以後毎年出展

個展：「一街一森下恭介作品展」(ほんまる珈琲中通りヘテロトピア/広島)

2017年

広島市立大学大学院博士後期課程 修了

2018年

個展：「F e -森下恭介作品展-」(ギャラリー交差611/広島)

2019年

グループ展：「広島市立大学日本画選抜展」(八千代の丘美術館/広島)

2020年

個展：「petit 森下恭介小作品展」(Gallery café 月~Yue~/広島)

2021年

グループ展：「其々の景色- 広島市立大学選抜作家による日本画展」

(新宿高島屋/東京)

個展：「SKETCH 森下恭介作品展」(ギャラリー 718/広島)

現在 広島を拠点に活動中